

Agilent Cary UV ワークステーション ソフトウェア

UV-Vis 分光光度計シリーズの
強力で柔軟な分析プラットフォーム



Agilent Cary 3500 UV-Vis 分光光度計シリーズ用 Agilent Cary UV ワークステーションソフトウェアを 最新版にアップグレードする絶好のチャンス

最新版ソフトウェアの特長

- 計算結果をメソッド内に保存することにより、実験時間を短縮し、計算ミスを最少まで低減。
- Y Max 関数から得られた実用的な結果を使用して分析を高速化することにより、スペクトル分析を迅速かつ詳細に実施し、最大スペクトル位置を同定。
- 最大 10 個の読み取り値の平均処理または繰り返し処理を自動実行することにより、サンプルの定量測定生産性を向上させ、SOP の導入を支援。

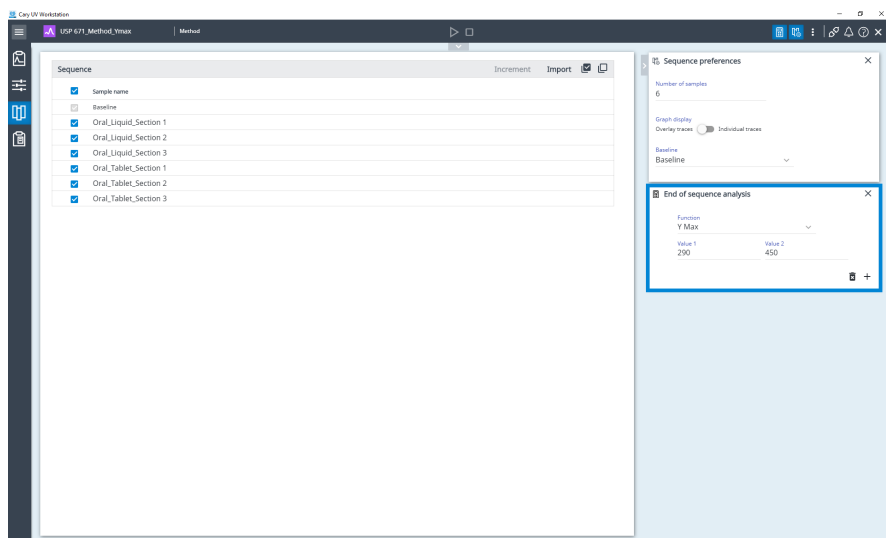


図 1. Agilent Cary UV-Vis ワークステーションソフトウェアの [End of sequence analysis(シーケンス分析の終了)] カードで設定されている Y Max 関数。この関数は、データ取得が終了すると、自動実行されます。

Cary UV ワークステーションソフトウェアの最新版にアップグレードする理由

- Windows 11、バージョン 21H2 に対応。
- Agilent OpenLab 2.7 および ECM 3.6.5 のサポートなど、コンプライアンス機能の強化。
- 米国薬局方 USP <857>、欧州薬局方 (Ph.Eur.Chapter 2.2.25)、および日本薬局方 (JP XVIII) の要件に適合しており、規制面における安全の確保。

Cary UV ワークステーションソフトウェア製品はすべて、次の機器に対応しています。

- Cary 3500 コンパクト UV-Vis 分光光度計
- Cary 3500 マルチセル UV-Vis 分光光度計
- Cary 3500 フレキシブル UV-Vis 分光光度計

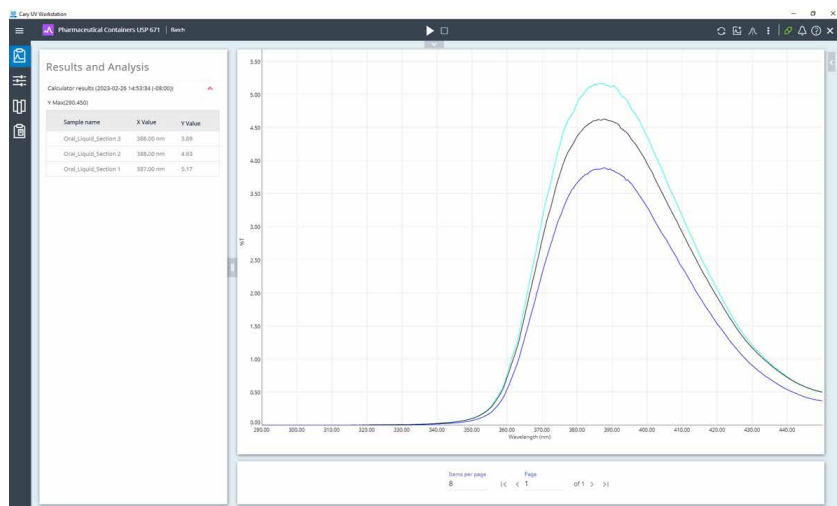


図 2. Agilent Cary UV-Vis ワークステーションソフトウェアの UV-Vis 透過分析の結果。USP <671> 「Container Performance Testing standard (容器の性能試験用標準)」に従った、医薬品用プラスチック容器の 3 箇所異なる部分の分析結果が表示されています。結果の表 (左側) は、[End of sequence analysis (シーケンス分析の終了)] カードを使用して自動計算された、トレースごとの Y Max 値が表示されています。透過スペクトル (右側) は、容器の異なる部分における光透過率のばらつきを示しています。

詳細情報

- Cary UV ワークステーションソフトウェア
- GMP 施設のデータインテグリティ実現のために - Agilent Cary 3500 UV-Vis 向け Cary UV ワークステーションソフトウェア
- UV-Vis 分光分析と分光光度計の FAQ

ホームページ

www.agilent.com/chem/jp

カスタムコンタクトセンター

0120-477-111

email_japan@agilent.com

本製品は一般的な実験用途での使用を想定しており、医薬品医療機器等法に基づく登録を行っておりません。本文書に記載の情報、説明、製品仕様等は予告なしに変更されることがあります。

DE62942667

アジレント・テクノロジー株式会社

© Agilent Technologies, Inc. 2023

Printed in Japan, March 15, 2023

5994-5845JAJP